

Title	或ル種ノ函數方程式ニ就イテ
Author(s)	春木, 博
Citation	全国紙上数学談話会. 262 p.90-p.98
Issue Date	1944-03-20
oaire:version	VoR
URL	https://doi.org/10.18910/75103
rights	
Note	

Osaka University Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

Osaka University

1170. 或ル種ノ函数方程式ニ就イテ

春 木 博(神戸商船)

§ 1. 南雲, 角谷西先生ハ全国紙上数学談話會第66号ニ於テ次ノ美麗ナル定理ヲ証明サレタ。

[定理1] $f(x, y)$ $-\infty < x < +\infty, -\infty < y < +\infty$ ナニ定義サレタ一價実数值連續函数トスル。平面上ノ任意ノ点 P ヲ中心トシテ, 任意ノ半径ノ円ヲエカキ, ヲノ周囲ヲ n 等分シ、ノノ分点ヲ夫々 $Q_1, Q_2, Q_3, \dots, Q_n$ トスルトキ, 常ニ

$$\frac{1}{n} \{f(Q_1) + f(Q_2) + f(Q_3) + \dots + f(Q_n)\} = f(P)$$

ナラバ, $f(x, y)$ ハ複素係数ヲ持ツ複素数変数ノ高々 $n-1$ 次ノ多項式ノ実数部, 即チ $R(a_0 + a_1 z + a_2 z^2 + \dots + a_{n-1} z^{n-1})$ ニ等シイ。又解ハ $1/n$ 限ル。($z = x + iy$)

次ニコノ定理ニ於テ、 $n=3$ ノトキ、幾何學の意味ヲ更ニ求メテ見ヨシ。

上ノ定理ヲ $n=3$ ノトキニ、云ヒ換ヘレバ次ノヤリニナル。

定理2 $f(x, y)$ $-\infty < x < +\infty, -\infty < y < +\infty$ ニ定義サレタ一價實數値連續函數トスル。平面上ニ任意ノ正三角形 $Q_1 Q_2 Q_3$ ヲ取リ、 Q_1, Q_2, Q_3 ニ頂点 Q_1, Q_2, Q_3 ニテ $f(x, y)$ ガ取ル値ノ算術平均ガ $\triangle Q_1 Q_2 Q_3$ ノ重心 P ニテ取ル値 $f(P)$ ニ等シイ。又 $f(x, y)$ ハ複素係數ヲ持ツ複素數変數ノ高々二次ノ多項式ノ實數部、即チ $R(a_0 + a_1 Z + a_2 Z^2)$ ニ等シイ。又解ハソレニ限ル。($Z = x + iy$)

コノデ、 $R(a_0 + a_1 Z + a_2 Z^2)$ ハ x, y ノ調和函數ナル故、結局 $f(x, y)$ ハ $f(x, y) = a(x^2 - y^2) + bxy + cx + dy + e$ ノ形ニ書ケル。茲ニ a, b, c, d, e ハ任意ノ實常數ナリトスル。

サテ解析幾何學一次ノ定理ガアル。

(Poncelet - Brianchonノ双曲線ニ關スル定理)

直角双曲線上ニ、三頂点 Q_1, Q_2, Q_3 ヲ持ツ三角形 $Q_1 Q_2 Q_3$ ノ重心ハソノ直角双曲線上ニアル。

(系) 直角双曲線上ニ、三頂点 Q_1, Q_2, Q_3 ヲ持ツ正三角形 $Q_1 Q_2 Q_3$ ノ重心ハソノ直角双曲線上ニアル。

コノ系ヲ上述ノ函數方程式ノ結果ヨリ証明シテ見ヨシ。

$f(x, y) = a(x^2 - y^2) + bxy + cx + dy + e$ ト、
 定理2ニ於テ $f(x, y) = 0$ トル曲線ヲ考ヘレバ之ハ直角双
 曲線ノ一般形ナリ。

ソノ上ノ三點 Q_1, Q_2, Q_3 ハ $f(x, y)$ ノ零點ニナル。
 故ニ定理2ノ結果ヨリ

$$f(P) = \frac{1}{3} \{f(Q_1) + f(Q_2) + f(Q_3)\}$$

故ニ $f(P) = \frac{1}{3} (0 + 0 + 0) = 0$

故ニ點Pハ $f(x, y)$ ノ零點トナリ、從ツテPハ直角双
 曲線上ニアルコトガ証明サレタ。

次ニ函数 $f(x, y) = a(x^2 - y^2) + bxy + cx + dy + e$
 ノ他ノ似タ方面カラ考ヘテ見ヨウ。

先ツ定理3ヲ証明スル。

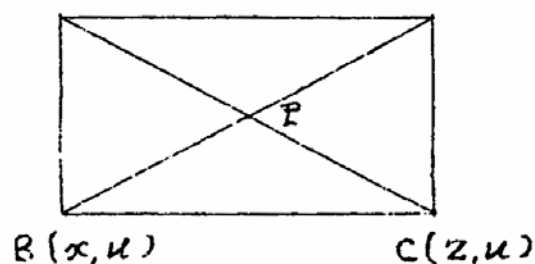
定理3 $f(x, y)$ $-\infty < x < +\infty, -\infty < y < +\infty$ ニテ
 定義サレタ一變實數値函数トシ、 x 及ビ y ニツイテ夫々可
 測ナリトスル。今平面上ニ、 x 軸、 y 軸ニ夫々平行ナ近ヲ持
 ツ任意ノ矩形 $ABCD$ ヲユガヤ、其ノ重心(中心)ヲPトス
 ルトキ、唯ニ

$$f(P) = \frac{1}{4} \{f(A) + f(B) + f(C) + f(D)\}$$

ナラバ $f(x, y) = axy + bx + cy + d$ トナル。又解ハソ
 レニ限ル。故ニ a, b, c, d ハ任意ノ實數ナリトスル。

(証明) 點Aノ座標ヲ (x, y) 、點Cノ座標ヲ (z, u)
 トスレバ B, Dノ座標ハ夫々 (x, u) 、 (z, y) トナリ、又P
 ノ座標ハ

$A(x, y)$ $D(z, y)$ $\left(\frac{x+z}{2}, \frac{y+y}{2}\right)$ トナルカラ,



單へラレタ函数方程式ハ次ノ

マデニ書ケル。

$$f\left(\frac{x+z}{2}, \frac{y+y}{2}\right) = \frac{1}{4} \{f(x, y) + f(x, u) + f(z, u) + f(z, y)\}$$

コノ式ニ於テ $u=y$ トスレバ

$$f\left(\frac{x+z}{2}, y\right) = \frac{1}{4} \{f(x, y) + f(x, y) + f(z, y) + f(z, y)\}$$

$$\text{故ニ} \quad f\left(\frac{x+z}{2}, y\right) = \frac{1}{2} \{f(x, y) + f(z, y)\}$$

$f(x, y)$ ハ x ニツイテ可測ナル故、之ヨリ

$$f(x, y) = \alpha(y)x + \beta(y)$$

同様ニシテ $f(x, y)$ ハ y ニツイテ可測ナル故、結局 $f(x, y)$ ハ y ニツイテ α linear トナル。

$$\text{結局} \quad f(x, y) = axy + bx + cy + d$$

茲ニ a, b, c, d ハ任意ノ實数ヲ表ス。

コノ結果ニ於テ座標軸ヲ廻転サセルコトニヨリ次ノ定理
4ヲ得ルコトハ明カデアアル。

定理4 $f(x, y)$ $-\infty < x < +\infty, -\infty < y < +\infty$ ナ

定義サレタ一價實数値函数ヲ x 及ビ y ニツイテ、夫々可測ナ
リトスル。今 x 軸ト一边ガ一定角 α (正ノ方向ニ) ヲナスニ

意、矩形 $ABCD$ を取れば、その重心（中心）を P とすれば
 $\text{重心} = f(P) = \frac{1}{4} \{f(A) + f(B) + f(C) + f(D)\}$ となる。
 $f(x, y) = a(x^2 - y^2) + bxy + cx + dy + e$ とする。
 又解は ∞ に限る。故に a, b, c, d, e は実数で $b = -2a$
 $\cos 2\alpha$ とする。

序でに、**定理 3** を更に云へ換へると次のようになる。

定理 3' $f(x, y)$ が $-\infty < x < +\infty, -\infty < y < +\infty$
 で定義される二変実数値関数で、 x 及び y のいずれも大々可
 測とする。今 x 軸及び y 軸に平行な辺を持つ任意
 の矩形を $ABCD$ とすれば、三次元空間に於て $Z = f(x, y)$
 による曲面上の四角 $f(A), f(B), f(C), f(D)$ の四頂点と
 する四面体の重心が $\text{重心} = \text{曲面 } Z = f(x, y) \text{ 上}$ となる。
 又 $f(x, y) = ax^2 + by^2 + cx + dy + e$ とする。又解は ∞
 に限る。

故に a, b, c, d は任意の実数である。 $Z = f(x, y)$
 は一般に双曲拋物線面となる。

§ 2. $f(x)$ が $x > 0$ で定義される一変実数値関数と
 すれば、次の函数方程式を満たすものを求めよう。但し a
 は正の実数とする。

$$(1) \quad f(ax) = f(x)$$

$g(x) = f(e^x)$ とおけば $g(x)$ は $-\infty < x < +\infty$ で
 定義される一変実数値関数で (1) から容易に判る。

=

$$g(x + \log \alpha) = g(x)$$

ヲ満足サセル。

故 = $f(x) = g(\log x)$

之ガ (1) ヲ満足スルコトハ明ラカダアル。茲ニ $g(x)$ ハ $-\infty < x < +\infty$ デ定義サレタ $\log \alpha$ ヲ週期トスル任意ノ一價実数値函数トスル。

次ニ、 $f(x)$ ヲ $x > 0$ デ定義サレタ一價実数値函数トスルトキ、次ノ函数方程式ヲ満足サセルモノヲ求メヨウ。但シ α, β ハ正ノ常數トスル。

$$(2) \quad f(\alpha x) = f(\beta x)$$

$$(2) = \text{於テ } x \text{ ノ代リ} = \frac{x}{\beta} \text{ トオケバ}$$

$$f\left(\frac{\alpha}{\beta}x\right) = f(x)$$

結局 (1) ノ函数方程式ニ帰着サレタコトニナル。故ニ求ムル解ハ $g(x)$ ヲ $-\infty < x < +\infty$ デ定義サレタ一價実数値函数ヲ $\log \frac{\alpha}{\beta}$ ヲ週期トスル任意ノ函数トスレバ $f(x) = g(\log x)$ ニテ與ヘラレル。

次ニ $f(x)$ ヲ $-\infty < x < +\infty$ デ定義サレタ一價実数値連続函数トシ、次ノ函数方程式ニ適スルモノヲ求メヨウ。但シ、 a, b ハ実常數デ $|a| \neq 1$ ナリトスル。

$$(3) \quad f(ax+b) = f(x)$$

先ツ $|a| < 1$ ノ時カラ始メル。

(3) より任意、自然数 n に対し

$$f(x) = f(a^n x + a^{n-1}b + a^{n-2}b + \dots + b)$$

ヲ得ル。即チ

$$f(x) = f\left\{a^n x + \frac{b(1-a^n)}{1-a}\right\}$$

茲デ、 $n \rightarrow \infty$ となシムレバ $|a| < 1$ ナラバ $f(x)$ が連続ナルコトカラ

$$f(x) = f\left(\frac{b}{1-a}\right)$$

即チ $f(x) \equiv \text{constant}$

ヲ得ル。

次 $|a| > 1$ となラバ (3) より

$$f(x) = f\left(\frac{x}{a} - \frac{b}{a}\right)$$

カウスレバ $|\frac{1}{a}| < 1$ となルカラ前ト同様ニシテ

$$f(x) \equiv \text{constant}$$

結局求ムル解ハ

$$f(x) \equiv \text{constant}$$

§ 3. $f(x)$ が $-\infty < x < +\infty$ で定義サレタ一変実数値函数トシ、 $f(x)$ = 何等解析的性質 (連続性、微分可能性、可測性) を具ヘナイトスル。コノ時函数方程式

$$(4) \quad f(x+y) + f(x-y) = 2f(x)f(y)$$

ヲ満足セシメル $f(x)$ ハ如何ナル形ヲ持ツカ。 $f(x) \equiv 0$ ハ

除リ、

直チニ豫想セラレルコトハ $h(x)$ ヲ適當ニ $Idamel$
ノ解 (函数方程式 $f(x+y) = f(x) + f(y)$) ノ解ヲ指ス
トスルトキ

$$\cos[h(x)], \cos h[h(x)]$$

ト書ケハシタイト云フコトデアラ。以前筆者ハ雜誌函数
方程式第二十三号ニ於テ、此ノ方程式ヲ論シタガ、ソコ
デハ解ガ $f(x) \geq 1$ トルトキト $|f(x)| \leq 1$ トルトキニ分レ、
又 $f(x) \geq 1$ トルトキハ有理数 $x = \text{対シ}$ $\cos h$ x トナル
コトヲ述ベタ。又ハ実常数トスル。

又雜誌函数方程式第四十一号ニテ上記(4)ノ函数方程
式ト

$$(5) \quad f^2(x+y) + f^2(x) + f^2(y) - 2f(x)f(y)f(x+y) = 1$$

トノ關係ヲ矢張り解析的性質ヲ假定セズニ論シタガ、何レ
ノ場合ニ於テモ、符号ノ吟味ガ困難トナリ、完全ニハ解決サ
レナイ。御研究イラベ御教示願ヒタイ。

序デナカヲ雜誌函数方程式第四十一号ノ拙文ニ於テ
37P. 下カラニ行目「換言スレバ(容易ニ判ルヤ)ニ」
「 $\{f^2(x)-1\}\{f^2(y)-1\} \neq 0$ ナル $x, y = \text{対シテハ}$ 」ト云フ
文句カアルガ、之ハ間違ヒデ且ツ餘計ナ文句デアルカラ、削
除スル。

(追記)

定理1 = 於ケル高田、角谷兩先生ノ証明カラ 容易ニ判

ルヌ γ =、複素係数ヲ持ツ n 次ノ複素変数ノ多項式ノ特有性質ヲ導キ出スコトガ出来ル。

多項式ノ特有性質 $f(z)$ ヲガウス平面上ニ於テ $|z| < +\infty$ ニテ一様正則 (即チ整函数) トスル。今ガウス平面上ニ任意ノ正 $(n+1)$ 多角形ヲエカキ、ソノ $(n+1)$ 個ノ頂点ノ重心ヲ P トシ、コノ正多角形ノ各頂点ノ $w = f(z) = \gamma$ ヲ w 平面ヘノ像点ヲ夫々 $Q'_1, Q'_2, Q'_3, \dots, Q'_{n+1}$ トスルトキ、 $f(P)$ ガ $(n+1)$ 個ノ点 $Q'_1, Q'_2, Q'_3, \dots, Q'_{n+1}$ ノ重心+ラバ $f(z)$ ハ高々 n 次ノ多項式デアル。

—— (完) ——